

環境省「モデル事業」



開発予定地の里山

地域発

1ム(約4・3倍)に、1万5000区画の巨大霊園を建設するというもの。標高幸1000m、30〜35度の傾斜地を削り、沢の源流部分を埋め立てて造成します。今回の計画が市に提出されたのは、2012年3月でした。住民団体やNPO法人神奈川県自然保護協会、日

本野烏の会神奈川支部などは、開発を見直すよう求める要望書を市などに提出。同年6月の市議会では、日本共産党市議団の露木順三団長が質問に立ち、計画地とその周辺にはオオカキノスリ、ハチクマなど絶滅が危惧される猛禽(もうきん)類の繁殖や飛しょうが確認されていることなどを指摘して、開発を認めないよう求めました。同年8月には4市民団体が、開発計画の見直しを求める署名5067人分を古谷義幸市

長に提出しました。計画中止へ 共産党奮闘 同年12月の市議会では、露木議員が、市民からの強い要望があることから「計画地の購入をこじ迫りましたが、古谷市長は「市が買ひ上げるというような選択の余地は持っていない」と答弁。計画見直しを求める陳情は、賛成少数で否決されました。計画は14年3月、森林法にもとづく県の開

神奈川・秦野

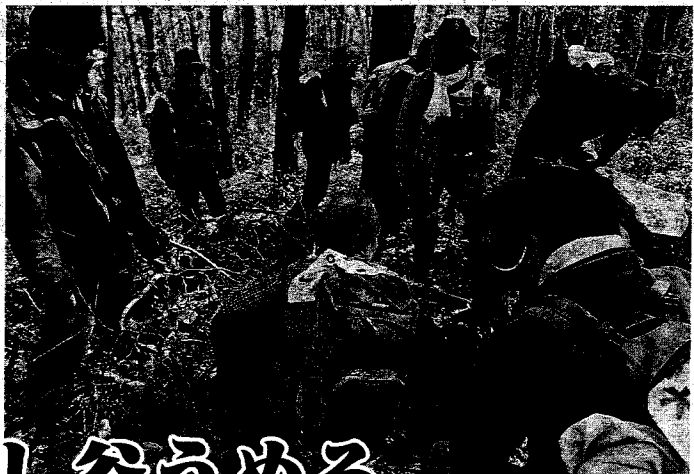


秦野市は、秦野市の南端に位置します。歩きやすい山々が連なり、子ども連れや年配

環境省が「里地里山保全再生モデル事業」として選定した全国4カ所のうちの1つ、神奈川県秦野市の渋沢丘陵が、巨大霊園の開発で壊されようとしています。住民らは「生き物の命あふれる里山を未来世代に残したい」と開発反対の運動をしています。 神奈川・下元悦美記者

の人が気軽に訪れる里山です。また、準絶滅危惧種の国チョウ・オオムラサキがまとまって繁殖する貴重な場所です。「渋沢丘陵を考える会」は毎月、自然観察会を行っています。3月9日、オオムラサキを守る「巨大霊園はいらない」などのゼッケンをリュックサックにつけた人たちが集まりました。この日は、市内だけでなく、横浜、小田原、大和、逗子の4市や東京都江戸川区、八王子市から14人が参加しました。 一団を先導する日置乃武子さん(77)が落

ち葉の積もった尾根道で足を止め、「霊園の開発計画では、この尾根が切り崩され、その土で谷を埋める計画です」と説明。足元の落ち葉をそっとかき分けると、環境省が準絶滅危惧種に指定する植物「オトメアオイ」が顔を出しました。 環境省のモデル事業実施地域となった渋沢丘陵を保全・再生しようと、住民、NPO、非営利組織、専門家らがボランティアで活動しています。 問題となっている計画は、公益財団法人相模メモリアルパークが、この丘陵の八国見山南面約20秒(東京ド



植物を観察する参加者=3月9日、神奈川県秦野市

里山・渋沢丘陵ピンチ

巨大霊園開発 尾根崩し谷うめる

発許可が下りました。今後は、事業者から許可申請が出れば、市で審議される予定です。市は今年3月、国の生物多様性地域連携促進法(11年10月施行)にもとづき「秦野市生物多様性地域連携保全活動計画」を策定しました。その「基本的な考え方」の中で、ボランティアだけの保全・再生活動に限界が感じられてきたと提起。そうした課題克服のため、生活様式を考え、実践することの必要性を指摘し「里地里山を取り入れたライフスタイルが秦野の魅力であり、秦野の『売り』として誇れるような価値観を創造していきます」とうたっています。しかし、市は巨大霊園開発をストップさせる姿勢を示していません。 日置さんは訴えます。渋沢丘陵は、海と山をつなぐ大磯丘陵に広がる五大緑地の一つで、開発予定の場所はその心臓部に当たります。この地域の自然を壊すことは、住民は言うに及ばず、県や市にとっても大きな損失です。開発しないでほしい。 露木議員は「反対の声を上げてきたかう住民の方たちと力を合わせて、議会を迫り、何としても計画をストップさせたい」と語ります。